

# 区立園給食の安全配慮について

子どもの頃は、どんな食べ物も誤嚥や窒息の危険があります。また、ご家庭で食べていても幼児期以降にアレルギー症状を新規に発症する傾向が高い食べ物もあります。

区立園では、食材の選定や調理の工夫、園児への食事介助として、安全で安心な給食が提供できるよう、以下の点に配慮をしています。

## 1 給食で使用しない食材

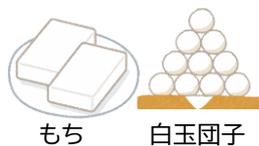
**(1) 球形という形状が危ない食材** 球形の形状が吸い込みにより気道を塞ぐ危険があるため



プチトマト 乾いたナッツ・豆類 うずらの卵 あめ類・ラムネ 球形の個装チーズ ぶどう・さくらんぼ 一口カップゼリー  
 ※ 園で栽培したプチトマトを使用する際は、4等分に切り、加熱して提供します。

**(2) 粘着性が高い食材**

食材に含まれるでんぷん質が唾液とまざることによって粘着性が高まる危険があるため



もち 白玉団子

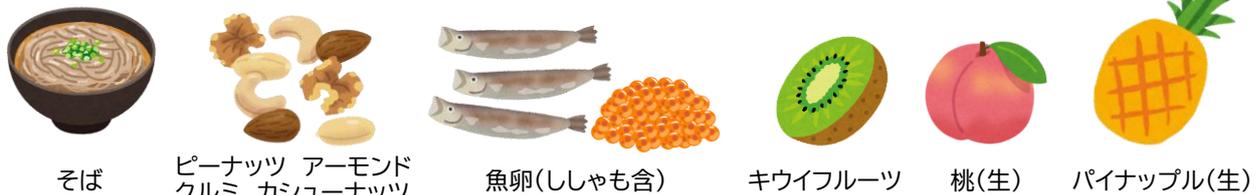
**(3) 固すぎる食材**

噛み切れず、そのまま気道に入る危険があるため



いか

**(4) アレルゲンになりやすい食材** 幼児期以降に新規発症する傾向が高い食材のため



そば ピーナッツ アーモンド クルミ カシューナッツ 魚卵(ししゃも含) キウイフルーツ 桃(生) パイナップル(生)

**(5) 0、1歳児クラス(1・2歳児合同クラス含む)は使用しない食材** 咀嚼機能が未熟なため



りんご(生) 梨(生) かき えび(桜えび・あまえび除く)  
 ※ りんご等は、加熱して、提供することはありません。

## 2 調理や切り方を工夫する食材

噛みちぎりにくい、弾力性が高い、繊維が固い食材は、子どもの発達に合わせ、細かく切る等の対応をしています。



焼き海苔は刻む・ちぎる

わかめは細かく切る

きのこ類・しらたきは1cm位に切る

## 3 食事の介助について

子どもの年齢に限らず、普段食べている食材が窒息につながる可能性があります。保育者は、添付の「食事の介助をする際に注意すべきポイント」に沿って、安全を確認しながら対応をしています。

特に、0・1・2歳児は、手づかみで食べることや自分で口に入れる量を調整できないことも多いため、担当する園児を決め、目を離さずに、園児の異変にすぐに対応できる距離で介助や見守りをしています。

# 食事の介助をする際に注意すべきポイント

**Point** 子どもが食べ始めたら、そばに付き、子どもの食べ方や様子を注視して介助する

- 配膳したら、すぐに子どものそばに付きます。
- 目を離さず、子どもたちの食べる様子をよく見て、食事介助を行きましょう。

\* やむを得ず子どものそばを離れるときは、近くの職員に声をかけましょう。



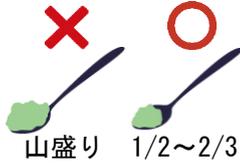
**Point** ゆっくり落ち着いて食べられるよう、子どもの意思に合ったタイミングで与える

- 食べ物を盛ったスプーンを、まだモグモグと食べている子どもの前に運ぶことはやめましょう。子どもが口に入っている物を慌てて飲み込む可能性があります。子どもが飲み込んでからスプーンを運びましょう。



**Point** 子どもの口に合った適切なひと口量で与える

■ 適切なひと口量とは…  
食べ物が口の中で動きやすく、無理なく上下の奥歯で噛める量のこと。



山盛り 1/2~2/3

	3歳未満児	3歳以上児
口の容量	大人の1/7	大人の1/2
スプーンの大きさ	子どもの唇の幅の半分くらい	
ひと口量	上記のスプーンに1/2~2/3量	

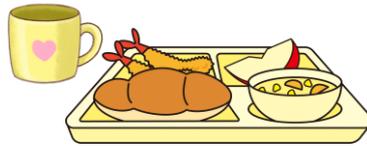
**Point** 食べ物を飲み込んだことを確認する

- 飲み込めなかった肉やパン等を、上あごや頬と歯茎の間等に残している場合があります。ひと口ごとに飲み込んだことを確認しながら食事介助を行いますが、最終的に食べ終わったら必ず確認しましょう。



**Point** 汁物などの水分を適切に与える

- 給食はすべての物を一度に配膳し、汁物やお茶がいつでも好きなタイミングで飲めるようにします。
- 一品食べをしないようにし、汁物やお茶等、食べている合い間に水分を摂らせるようにしましょう。



**Point** 食事中に驚かせない

- 食べ物が口に入っている時に、大きな声や音により驚いたり、泣いたりすると、口の中の食べ物が気管やのどにつまることがあるため、驚かせないようにしましょう。

\* 給食中の避難訓練は、サイレンではなく口頭伝達等の工夫をしましょう。



**Point** 食事中に眠くなっていないか注意する

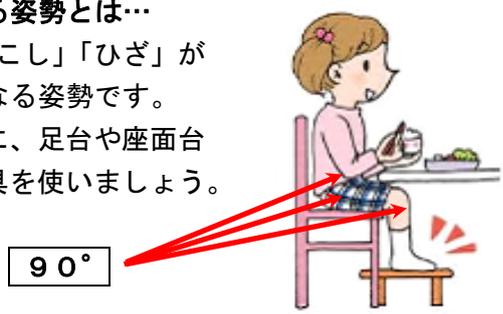
- 特に小さい子どもは、給食を食べている時に眠たくなることがあります。口の中の食べ物が気管やのどにつまるため、口を動かさずからといって食べさせ続けることは危険です。

眠たくなってしまった子どもは、口の中に食べ物が残っていないことを確認したら布団で寝かせてください。



**Point** 正しく座っているか注意する

- 正しく座る姿勢とは…  
「ひじ」「こし」「ひざ」が90°になる姿勢です。そのために、足台や座面台等の補助具を使いましょう。



90°